

高水温、低酸素飽和度の環境下でも銀鮭が摂餌し 魚体重が増える餌(日本版HT:JHT)の開発実証

実施地:宮城県女川町尾浦 銀鮭養殖場

実施機関:日本版HT:JHTの開発実証試験を行う共同実施機関

課題の概要

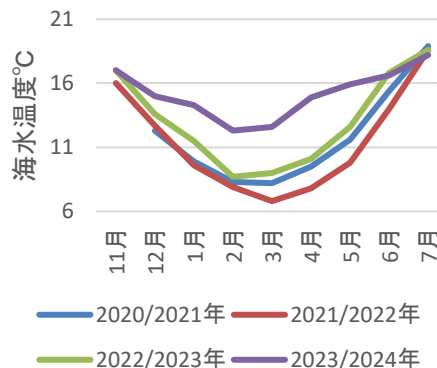
- 高水温の影響で養殖期間が従来より1.5ヶ月間短縮
- 従来摂餌量が多かった4・5月が高水温と低酸素飽和度で摂餌量が少なく魚体成長85%程度
- 銀鮭は水温15℃越で摂餌量が低下,17℃以上で無摂餌,20℃越でへい死が増加
- 前3シーズンの平均と比較して令和5年/6年シーズンは生産量は20.0%減少(自社比)

従来		2023/2024年シーズン	
11月	稚魚生簀入150g/尾		
	給餌	12月	稚魚生簀入150g/尾
3月	給餌 成長が良い銀鮭を選別して水揚		給餌
4月	↓	4月	給餌 成長が良い銀鮭を選別して水揚
5月		5月	
6月		6月	
7月		7月	7月2週で終漁予定
	↓ 終漁		

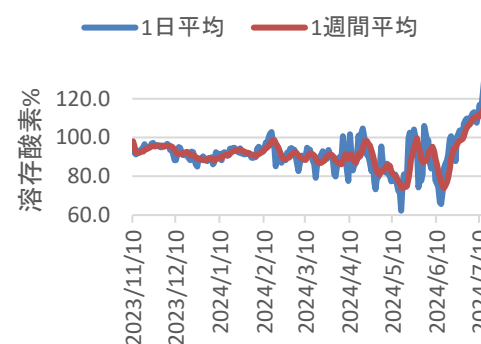
目標

- 実証生簀No1, 2に稚魚12トン入れ成魚生産量144トン以上
- 増肉係数(FCR): 1.37以上 宮城県内平均1.52 (令和4年実績)
- 新型餌を給餌した銀鮭の味食感は従来餌生産品と遜色ないこと

養殖場の水温各シーズン月別比較



令和5年/6年シーズン酸素飽和度



取組内容

- 海外で水温15℃以上でも摂餌する餌の開発実証中のスクレティング(株)が技術移転して国内基準の餌を開発
- 高水温・低酸素飽和度下でも摂餌する実証
- スクレティング(株)による摂餌行動を海象データとともに調査分析して新型餌の効能を評価、このデータは海外チームとも共有し助言を受ける
- 新型餌を給餌した成分 味食感の分析評価を実施